実践報告

新聞コラムノートの作成

木寺俊爾

一、はじめに

現下の受験教育の中にあって、国語をどう位置づけるかということは、われわれ国語教師の最大の問題といわねばならない。俗に、英・数・国と呼ばれる序列の中で、国語がともすれば取り残されがちであるという現実を、それがあらゆる思考の基礎になるという観点から、憂慮せずにはおられない。

私は、どうしたら生徒に国語の重要さを理解させ、国語に興味と関心を抱かせることができるかということを考え続けて来た。人格教育から離れた知識偏重教育がいかに多くの片輪者を生み出していることか。かれらの未来が機械的人間としての暗黒の世界であるのを、われわれは手をこまねいて見てはおれない。国語教師の日々の苦闘が、国語を通して「生きる」ということの意味を問い続けるものであるなら、その任務は重大といわねばならない。

こうした見地から、ここに現代国語における一つの試みを報告し、同志のご批判とご助言を仰ぎたい。なお、この実践は三年計画の第二年目にあたり、次年において総合的な評価をするつもりである。

二、目的

生徒の目を国語に向けさせるという努力は、授業の中でまた図書館教育の中で続けて来たが、それは模索の段階を出るものではなかった。そこには、国語そのものの時間数の不足やら、他教科との関係やらで十分な活動が制限されることがしばしばあった。だが、それよりもだいじなことは、教科書中心の授業がともすれば無味乾燥になりがちであるという事実から、現代国語の性格上もっと生徒の生活に密着した教材を使って自主的な学習への意欲を起こさせるように工夫することであると考え始めた。こんな時、ある研究会で新聞のコラム欄を使った短作文の練習の実践報告を聞き、新聞コラムノート作成のヒントを得た。新聞はわれわれの生活から切りはなすことのできないものであり、生徒も新聞に興味を持ちどこかの紙面を読んでいる。新聞を読むことの重要さと、それが生徒の生活に深いかかわりを持っているという認識の上に立って、これを教材として用いることに意義を見い出したのである。

さて、その場合何をどうやらせるかが問題である。新聞記事のすべてが教材として適当であるわけでもなく、また生徒の読む紙面も片寄っている。それゆえ、読むべきところを読ませ、読むことにあまり大きな負担を感じずに、ある期間作業を続けることのできるものという条件を満たす記事となると、第一面のコラム欄以外にはな

いと判断した。こうしたコラム（新聞によってちがうが朝日では天声人語）は、随想的評論ともいうべきもので、筆者の才筆が幅広い事象を捉えて読者を離さない。新聞の持つニュース性と独特の簡潔な文章は、教科書教材にはない魅力を持っている。

新聞コラムを教材とした学習を行なうにあたり、その目標を大きく次の三点においた。

①読解力をつける。

②表現力をつける。

③思考力と批判力を養う。

ノートの作成に際しては、この三点を満足させるような内容と形式を盛り込むことに留意した。実施時期は、できるだけ長期にわたり集中して学習するという意味から、夏期と冬期の休暇を利用することにした。

三、方法

ノートの作成と評価の方法は次の要領で実施した。

(ア)期間

実施期間を次の二期に分けた。

夏期休暇

昭和四十四年七月二十日～同年八月三十一日　四十二日

冬期休暇

昭和四十四年十二月二十五日～同年四十五年一月七日　十三日

計55日

(イ)人員

一年五組　四十四名

六組　四十五名

七組　四十六名

八組　三十九名

計百七十四名

但、五、六、七組は普通科、八組は理数科。

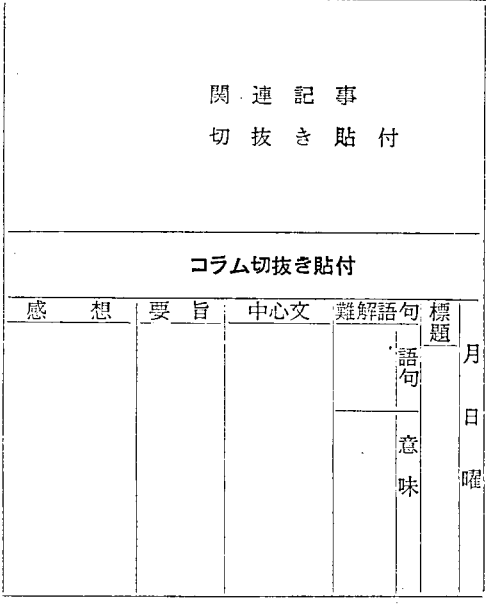
(ウ)新聞

生徒の家庭にある新聞を使用した。次の六紙である。

朝日、毎日、読売、産経、日経、和歌山

(エ)ノートの様式

ノートの様式は次の図に示す通りである。ノートは大学ノートを使用させ、見開二頁を一日分とした。二頁の内一頁はその日のコラム文に対する関連記事を全紙面、（前日の新聞でもよい）から切抜かせ貼付させた。なおノートの最終頁にコラムノート作成を終わっての反省文を書かせた。



（条件）

○標　題　八字を目安としてできるだけ簡潔に。

○難解語句　できるだけ多くのものを辞書であたる。

○中心文　一文でなくてもよい。

○要　旨　百字前後でまとめる。

○感　想　関連記事をよく読み批判する立場で書く。

○関連記事　できるだけ多く集めて熟読する。

○反省文　コラムノートの作成をふり返って思ったことを素直に書く。

(オ)提出日

夏期・冬期休暇終了後の授業第一時間目

(カ)評価

次の基準を設けて、学年末に平常点として成績に算入した。また夏期のものについては次票のような個人カードを作成し、冬期の学習に供するようにした。

両期を完成した者	＋7
両期に欠落のある者	＋3
一期のみ完成した者	0
一期のみで欠落のある者	－3
未提出者	－7

（注）平常点は学年で±15点を算入し、コラムノートの外に読書ノート±5、その他±3とした。

コラムノート採点票

組　番　氏名

採点項目	得点
標　題	
難解語句	
中心文	
要　旨	
感　想	
反省文	
字の正確さ	
作文力	
努力度	
問題意識	

短評

各項目五点法で採点し、五〇点満点とした。

四、実践結果

(ア)ノートの完成度別人員

	①	②	③	④	⑤	計
五組	34	3	4	1	2	44
六組	39	2	3	0	1	45
七組	33	2	7	0	4	46
八組	30	1	5	1	2	39
計	136	8	19	2	9	174
%	78	5	11	1	5	100

①――両期完成者

②――両期に欠落のある者

③――一期のみ完成した者

④――一期のみで欠落のある者

⑤――未提出者

(イ)新聞別人員

分析の対象となる両期完成者について調査した。

	天声人語	余録	編集手帳	サンケイ抄	春秋	伏虎春秋	計
	30	29	29	22	17	9	136

(注)天声人語（朝日）余録（毎日）編集手帳（読売）サンケイ抄（産経）春秋（日経）伏虎春秋（和歌山）

(ウ)昭和四十五年一月六日付「天声人語」全文

ここでは、最も多く対象とされていた朝日新聞の天声人語を分析し、その結果を報告することにした。

数年前まで、日本人のあいだに、なにかにつけて日本をけなし、自嘲する傾向があった。このごろ、その風があまり感じられなくなったのは、〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。▼国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。高度成長はつづき、企業は大型化し、国際競争力はふえている。ビルが立ちならびクルマは道路にあふれ、国民の消費生活の水準は向上し、レジャーも盛んになった。大都会は活気にみち、経済繁栄を感じさせる。二十数年前の敗戦後の苦しい生活がウソのように思えたりする。▼たしかに日本は経済先進国に追いついた。その誇りを持つことは結構だし、つまらぬ自嘲をおたがいにしなくなったのはうれしいことだが、経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。先進国に比べて、そう見劣りしないものになっているかどうか。▼日本人の利発と勤勉は定評がある。軍国主義でドロ沼に落ちこむと、一転して経済立国に邁進した。敗戦後の虚脱の時期が過ぎると復興のきっかけをつかみ、働きに働いた。高度成長の御興をかついで、その重さをものともせず、ひた走りに走った。六〇年代の最後の二、三年は、日本人が有史以来はじめて、多少の〃こづかい銭〃を持った時代といえよう。▼豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。産業の規模が大きくなるにつれ公害が拡大し、また交通事故の死傷者は激増する一方だ。都市の人口はものすごくふえ住宅は足らぬ。一生働いても、サラリーマンなどはささやかなわが家さえ、まず、持つことはできない。▼経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけでなく、国民生活の実質的な充実だ。高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんで、かつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。

(エ)標題（資料A）

この文章に標題をつける作業は、その順序からすると要旨のあとにくるべきものであるが、その性質上形式的に最初においた。

本文には、次の三つのポイントがある。

①経済大国日本

②国民の生活環境

③問題点（外見だけでなく内実も）

いま生徒の標題を、この三つのポイントのどこに重点を置いたかによって、次表のように整理してみた。

ポイント	生徒番号
①	1 8 10 21 23 24
②	2 14 25
③	3 4 5 6 7 9 11 12 13 15 16 17 18 19 20 22 26 27 28 29 30

①は、経済大国日本に焦点をあわしたものであり、経済発展の素晴しさを強調しすぎて筆者の問題点を不明確にしている。

②は、生活環境の悪化をとり出してはいるが、それが経済発展とどう関係しているのかが無視されているために、筆者の論旨を弱めている。

③は、①・②をふまえた上で、事実に基づく意見として筆者の問題点が提示されている。

前表を見ると、③が圧倒的に多い。これはその前段階の要旨を的確に捉えているためで、標題の何たるかを心得たものである。生徒番号3・16・17・18は標題として満足できるものであり、30もその核心をついたものといえる。28の「王国」が「大国」の誤りでないとすれば、皮肉がきいて面白い。標題には、八字という字数制限をつけた。これは新聞見出しの平均的字数で、ひとつの目安とした。最高十四字というのもあるが、その内容から容認される。

生徒の反省文の中に、標題をつけることに相当な興味と関心を示している者がいる。内容把握の最後の作業として考えるとき、標題を重視することは頷ける。

(オ)難解語句（資料B）

漢字力の不足は現在世間の物議をかもしているが、本校の生徒もその例外ではない。新聞に出ている漢字は読めるというのが社会人としての漢字力の最低条件であるならば、現代の高校生には相当な道のりがあるといわねばならない。

当用漢字の学習は、高校において完了するのであるが、「読める」ということは意味内容の理解まで含むものであるから、高校における漢字学習は今後強力に推進しなければならない。ことばの持つ厳密さと豊かさを漢字学習の中で知らせることができれば、国語教育のひとつの目標を達成したことになる。コラムノートでは、漢字を正確に書かせ、辞書で意味用法を徹底して調べる作業を課した。

資料Bを見ると、「自嘲」「繁栄」「利発」「勤勉」「定評」「邁進」「虚脱」「御興」「自称」「充実」の各語が多くとり上げられている。これらは当然辞書で当たる必要のあるものばかりである。「高度成長」「国民総生産」「企業」というような経済用語も、新聞用語辞典などを活用してもっと調べるべきだ。また、「軍国主義」なども現代的意味をもつことばであるからこの際調べて欲しかった。「有史以来」などのことばも最近多く目につく。ぼんやりとわかっている程度ではだめだから、明確にする努力が期待される。ことばに対する浅薄な知識がともすればそれ以上の学習意欲をそぐ場合がある。指導上一考を要する問題だ。

この仕事は生徒にとって相当な負担になったようだが、ことばの学習にはもともとこうした地道な努力が要求されるのだろう。

(カ)中心文（資料C）

ここで中心文というのは、文章を要約する場合の要点をさすものである。それ故、これは要旨をまとめる前段階として極めて重要である。この作業は、一読したのち構成を考えながら厳密な読みの中で進められるべきものである。段落相互の軽重はこれによって弁別される。

本文は、▼印によって六つの部分に区切られている。その各々の部分を仮に第一節から第六節と呼ぶことにする。

本文の構成は次のようである。（数字は節）

1 経済大国日本の誇り

2 国民総生産はソ連を除けば世界第二位 ↑ 4 日本人の利発と勤勉

3 われわれの生活環境は大国といえるほどのものかどうか

5 生活環境がひどく悪化している

6 国民生活の実質的な充実だ

このように三段落の構成とみることができる。

第一段落は、〃経済大国〃日本の素晴しい発展について背かれており、第二段落は、われわれの生活環境が果たして大国と呼べるものかどうかという疑問を提示し、第三段落は、日本を真の大国にするには国民生活の実質的充実が必要だとする。

故に中心文を抜き出すとなると、第一節、第三節、第五節、第六節に注目しなければならない。

資料Cを見ると、的確につかんでいるのは案外少ないことがわかる。次に抽出された節を○印で示して表にしてみた。

節／生徒	1	2	3	4	5	6
1	○		○		○	○
2	○	○	○		○	○
3		○	○		○	○
4	○	○	○		○	○
5		○	○		○	○
6	○	○	○	○	○	○
7		○			○	○
8	○	○	○	○	○	
9		○		○		○
10	○		○			○
11			○		○	○
12	○	○	○		○	○
13	○		○			○
14	○	○	○	○	○	○
15	○	○		○	○	○
16		○	○		○	○
17		○			○	○
18	○	○	○	○	○	○
19	○	○	○	○	○	○
20	○		○		○	○
21	○		○	○	○	○
22	○	○	○	○	○	○
23	○	○	○	○	○	○
24	○	○	○	○	○	○
25	○		○			○
26	○	○		○	○	
27		○	○		○	
28	○		○		○	○
29	○		○		○	○
30	○		○		○	○

生徒番号1、10、13、20、25、28、29、30はよく文章の骨子を捉えている。

中心文というものの説明不足によって、生徒がその抽出に迷ったようだが、なんといっても最初の通読による全体の把握が不足しているように思われる。生徒番号8、26、27などは論外であり、6、14、18、19、22、23、24は段落分けができていない。

くり返し読むことによって文章構成をつかみ、段落における重要部分をおさえることができる。中心文の抽出作業の中で、全体と部分の関係を通してより綿密な分析がなされ、要旨の把握に資する

学習態度が養われるよう心がけねばならない。

(キ)要旨（資料D）

要旨をまとめるということは、このノートを作成する上で最もだいじな作業である。これまでの学習成果がここに集約されて出て来なければならない。字数を一〇〇字前後に制限し、抽出した中心文をもとに本文に忠実に作業を進めるように示唆した。

全体として所期の目的を達成したと思われるが、中には全くピントのはずれたものもあり、要旨をまとめるという学習指導を強化する必要を痛感した。

この文章の要旨を次のようにまとめてみる。

「経済大国日本の誇りが国民の間にひろがったが、われわれの生活環境は大国といえるものかどうか。まわりを見渡せば生活環境はひどく悪化している。外見だけではなく国民生活の実質的な充実をはかるべきだ。」

資料Dを見ると、わりあいよくつかめているが、中心文抽出の不完全な者は要旨も不完全だ。中には中心文とはあまり関係なくよくまとまっているものもあるが、これは論理的に要旨をまとめるという手順を軽視したもので問題が残る。こうした論旨の明解な文章では直観的把握も可能だが、複雑な文章になると論理的思考が要求されるから、指導上も分析から総合への過程を重視しなければならない。

(ク)感想（資料E）

感想は、感じ考えたままを率直に書くように指示した。これを読むと、生徒ひとりひとりのものの見方、考え方、問題意識等がはっきりとわかる。

一月六日の天声人語は、高度経済成長と国民生活の問題を「人間の幸福」という観点から考えたものである。ここでは、経済繁栄の陰で蚕食されつつある生存権を回復するよう呼びかけている。中でも工業化社会の必然の結果として生まれた自然破壊は、人類の運命に暗いかげを投げかけているからだ。「文明とは」「人間の幸福とは」の問題が今ほど真剣に問われている時代はない。この時点において、われわれは価値観の転換を求められているともいえる。

資料Eを見ると、ほとんどの生徒は筆者の論旨を把握してこれに共鳴している。日常生活の中で生活レベルは上がっているという実感は生徒にあるようだ。だが、日本の経済発展はすばらしいとしながらも生活に充実感がないと思っていることも確かだ。経済繁栄とはいったいだれのことばだろうかという疑問もそこから出て来る。生徒番号23、25の所得配分、所得の平均化の問題は大きい。6、8、16、20、26のように政治に多くを期待するのも正しい。また、豊かな社会にするには物質的豊富さの前に情のある暖かい人間をつくることが先決だとする10の意見も人間教育の重要さを指摘したものである。4は「する論理」を強調してこれをイズムの問題としてとり上げ、所詮人間が人間である以上解決しないとしている。15、22は筆者の意図からはずれて経済立国としての日本の将来をあやぶんでいる。

生徒は案外この問題に関心があったようだ。交通事故や公害は生徒にとって身近な問題であり、自己の将来にとっても切実な問題である。生活環境を守り生活の実質的充実を期するために生徒

自身が主体的にこの問題を考え続ける糸口になったように思う。

(ｲ)関連記事（資料F）

関連記事は、コラムを読む上で必要である。ある生徒も、関連記事の少ない日は感想が書き難いといっている。ニュース性のある評論文では、関連記事の裏づけがなければ十分な理解ができないのは確かだ。

朝日新聞では、一月一日から七日まで五回にわたり「経済大国の素顔」という記事が連載されていて、六日はその(4)にあたっている。

資料Fを見ると、(4)を大部分の生徒が関連記事として読み、生徒番号10は(1)から(5)までを参考にしているのがよい。また29も熱心に関連記事を探していることがわかる。確かに当日の全紙面から、また過日の新聞から関連記事を抜き出すことは大変なことである。だが、新聞を読むにも努力が必要であり、ましてそれによって国語力をつけようとすれば相当な努力なしには成し得ない。この作業がノート作成の中で意義があるのもこの点からである。

(ｴ)反省文（資料G）

ノート作成を終わっての反省文を最後のページに書かせた。生徒がこのノートをどう受けとめ、日々の作業の中で何を感じとったかを知ることはノートのまとめとして興味深い。資料として生徒各自の全文を記載したいのだが膨大な量になるので、資料Gのように反省項目としてまとめてみた。

これを見ると、新聞に親しみ、社会・政治・経済に関心を持つようになったという生徒が多い。新聞を読むというと、三面記事、マンガ、テレビ番組が中心であった生徒にとって、一面のコラムを読むことは、「新聞のなんたるか」を知るとともに、社会人としての自覚をうながすようにもなったようだ。また毎日の積み重ねがいかにだいじであるかを、完成できなかった者はその反省として、完成したものは苦しみの中で完成した喜びとして感じとっている。完成したノートをめくる生き生きした顔が目に見えるようだ。国語学習がともすれば場あたり的おざなりな学習として生徒に受け取られ、それが生徒をますます倦怠にさそっていることを思うとき、こうした経験を通して真の国語学習のあり方を認識させたことに大きな意味がある。生徒番号6が「簡潔な文章の書き方を学んだ。」「物事を深く見つめることを教えられた。」「根性を養うことができた。」の三点をあげているが、これもノート作成の成果として喜びたい。そして生徒番号3、27のように感想では主体性のある意見を書きたかったというところに、このノートを媒体として自己を形成しようとする積極的な姿勢を見る。反面、4、5、11のように「毎日やらされる」ということに対する反発もあるが、それらに共通して言えることは「気分」を重視していることである。気の向いた時だけやればよいという考えは、私の意図した持続的学習とは縁遠いものだ。生徒番号5、14、20、23がプラスになったというとき、そこに「生きた国語の勉強」を体験したという喜びがあるようだ。

教科書教材を使った学習でも、生きた国語を感じさせるよう努力したいものだと思う。

五、おわりに

今年も私にとって意義深い夏休みにはいった。一年生三百六十

名が、真剣に「新聞コラムノート」に取り組んでいるからだ。国語教育におけるひとつの試みが成功するかどうかは、教師と生徒の熱意にかかっている。本校では幸いにも「新聞コラムノート」は国語学習の中に定着し、先輩から後輩へとその内容が伝えられるようになった。昭和四十三年度から始めたこの実践が、三年目を迎えてその価値を問われようとしている。今年のノートにも大いに期待したい。

昭和四十四年度に実施した「新聞コラムノート」をまとめてみた。ノートのできばえは予期した以上にすばらしいものであった。分厚いノートのどの頁にも生徒の努力のあとがうかがえる。第三席の国語が生徒の学習の中でどれほどのウエイトを持ちまた持たせ得るかということは、われわれ国語教師の関心事である。おざなりな学習を排除して持続的・集中的な学習を定着させるためにはどうするか、生徒を国語学習に動機づけるにはどうするか、問題はそう簡単ではない。

「新聞コラムノート」の価値は、この大問題に真正面から立ち向かったところにある。八百字ほどの文章を材料にしてその内容を把握し批判するという作業は、国語の総合能力を要求する。国語教育の目標が他人の言うことを正しく理解し自分の考えを正しく表現するところにあるとすれば、この試みは生きた国語教育といえる。正しく理解するということは、鋭い言語感覚でもって論理的に分析し総合することである。ここではことばのあいまいさは許されない。正しく表現するということも正しい思考とことばを二本の柱にしている。あいまいなことばとあいまいな思考から生まれるものは、あいまいな生活態度である。厳密なことばから豊かな人生が開けるとすれば、国語教育の重要さを再認識すべきであろう。この実践に対する同志のご批判を切に希望します。

資料A

生徒番号	性別	標題
1	男	日本の経済
2	女	国民の生活環境
3	女	真の〃経済大国〃とは……
4	男	高度成長と生活環境
5	女	日本の飛躍と悪問題
6	男	経済大国の裏には……
7	男	発展の裏の悪
8	男	経済大国日本
9	男	実質的充実を！
10	女	経済大国ニッポン
11	女	経済大国の中味
12	女	経済の高度成長と実質
13	男	生活環境の改善
14	女	悪化される生活環境
15	男	経済大国日本の実質
16	男	本当か？経済大国日本
17	男	急げ国民生活の充実
18	男	日本を真の経済大国にするには
19	男	経済大国の裏側
20	男	改善すべき生活環境
21	男	経済大国日本
22	女	経済大国日本の環境
23	男	経済大国日本
24	男	経済大国日本
25	男	日本の生活環境
26	女	経済大国の実態
27	女	先決問題
28	男	経済王国ニッポン
29	女	〃経済大国〃の中味
30	男	経済大国の問題点・

尊重	充実	実質的	自称	激増	拡大	公害	規模	悪化	有史	御興	復興	虚脱	遷進	一転	ドロ沼	軍国主義	定評	勤勉	利発	環境	結構	繁栄	活気	水準	企業	高度成長	傾向	自嘲	難解語句
3	3	14	3	4	19	5	5	6	3	1	14	1	1	3	17	17	3	3	1	3	8	3	3	20	3	10	6	1	生徒番号
11	5		11	15			19		5	2	20	2	2				5	5	3	22	14	4	11	24	13		12	2	
	6		14				30		10	4	26	3	3				6	7	5			8	19		30			3	
	10		17						14	5		5	4				8	8	7			11						4	
	15		19						20	7		7	5				9	10	8			14						5	
	16		20						29	9		9	6				10	11	9			15						6	
	24		25							13		10	7				11	14	10			16						7	
	25		28							14		11	8				14	15	11			20						8	
										15		12	9				15	22	12			23						9	
										17		13	10				20	24	13			29						10	
										19		14	11				24		14									11	
										22		15	12				25		15									12	
										23		16	13				27		16									13	
										25		17	14				28		17									14	
										26		18	15				29		19									15	
										28		20	16				30		20									16	
										29		21	17						21									17	
										30		23	18						22									18	
												25	19						24									19	
												26	20						25									20	
												27	21						27									21	
												28	22						28									22	
												29	23						29									23	
												30	24						30									24	
													25															25	
													26															26	
													27															27	
													28															28	
													29															29	
													30															30	

資料C

生徒番号	節	中心文
1	1	このごろその風があまり感じられなくなったのは、〃経済大国〃日本の誇りが国民に広がったからである。
3	1	われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
5	1	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境が悪化している。
6	1	外見だけではなく、国民生活の実質的な充実だ。
2	1	〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがった。
2	2	大都会は活気にみち、経済繁栄を感じさせる。
3	2	われわれの生活環境は大国といえるほどのものかどうか。
5	2	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
6	2	外見だけではなく、国民の生活の実質的充実。
3	2	国民生産はソ連を除けば世界第二位だ。
3	3	その誇りを持つことは結構だし、つまらぬ自嘲をおたがいしなくなったのはうれしいことだが、経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
5	3	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
6	4	人間尊重のない〃経済大国〃のかけ声だけでは息切れも早くはないか。
1	4	〃経済大国〃の誇りが国民にひろがった。
2	4	二十数年前の敗戦後の苦しい生活がウソのように思えたりする。
3	4	先進国に比べてそう見劣りしないものか。
5	5	生活環境がひどく悪化している。
6	5	人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
2	5	国民総生産は、ソ連を除けば第二位だし、高度成長は続いている。
3	5	われわれの生活環境は、大国といえるほどのものか。
5	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
6	6	人間の尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
1	6	数年前まで、日本をけなし自嘲する傾向、〃経済大国〃日本の誇り。
2	6	国民総生産世界第二位。
3	6	経済大国と胸を張る前に、われわれの生活環境は大国といえるほどのものか。
4	6	日本人の利発と勤勉、〃こづかい銭〃
5	6	生活環境が悪化。

6	7	経済天国を自称する前にやらねばならぬことがヤマとある。人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
2	8	国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。高度成長はつづき企業は大型化し、国際競争力はふえている。
5		豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
6		経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけではなく、国民生活の実質的な充実だ。
1		日本をけなし自嘲する傾向があったが、このごろその風があまり感じられなくなった。経済大国日本の誇りが国民にひろがったからである。
2		大都会は活気にみち経済繁栄を感じさせる。
3		しかしわれわれの生活環境は大国といえるほどそう見劣りしないものになっているかどうか。
4		公害が拡大し交通事故が多くなり一生働いてもささやかなわが家をもつことはできない。
5		やらねばならないこと国民生活の充実だ。高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんでかつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
9		二十数年の敗戦後の苦しい生活がウソのように思えたりする。
2		六〇年代の最後の二、三年は日本人が有史以来はじめて多少の〃こづかい銭〃を持った時代といえよう。
4		経済大国と自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけでなく国民生活の実質的な充実だ。
6		このごろその風があまり感じられなくなったのは、〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
10		たしかに日本は経済先進国に追いついた。われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
1		高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんでかつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
6		人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
3		生活環境は大国といえるほどのものかどうか。先進国にくらべてそう見劣りしないものになっているかどうか。
11		豊かな社会に数歩接近したがさてまわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
5		経済大国を自称する前にかつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
6		数年前まで、日本人の間に、なにかにつけて日本をけなし、自嘲する傾向があった。
1		国民総生産はソ連を除けば世界第二位だ。
2		経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
3		豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
5		高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんでかつぐ国民の生活環境を改善すべきだ。
6		このごろは、日本人は日本を自嘲する傾向があまり感じられなくなったのは〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
1	13	経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
3		

生徒番号	節	中心文
14	6	高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんで、かつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
	1	数年前まで日本人の間になにかにつけて自嘲する傾向があった。今はその様なことは感じられない。
	2	国民総生産世界第二位・大都市は活気にみち、経済繁栄を感じさせる。
	3	たしかに日本は経済先進国に追いついた。がわれわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
	4	六〇年代の最後の二、三年は、日本人が有史以来始めて多少の〝こづかい銭〟を持った時代といえよう。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
	6	外見だけでなく国民生活の実質的な充実だ。このへんでかつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
15	1	経済大国
	2	二十数年前の敗戦後の苦しい生活がウソのように思えたりする。
	4	軍国主義でドロ沼に落ちこむと、一転して経済立国に邁進した。
	5	生活環境がひどく悪化している。
	6	国民生活の実質的な充実だ。
16	2	高度成長は続き、企業は大型化し、国際競争力はふえている。
	3	われわれの生活環境は大国といえるほどのものかどうか。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
	6	外見だけでなく、国民生活の実質的な充実だ。
17	2	国民生産はソ連を除けば世界第二位だ。
	5	生活環境がひどく悪化している。
18	6	経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけではなく国民生活の実質的な充実だ。
	1	数年前まで日本人のあいだに、なにかにつけて日本をけなし自嘲する傾向があった。このごろその風があまり感じられなくなったのは、〝経済大国〟日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
19	2	国民総生産はソ連を除けば世界第二位だ。
	3	われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
	4	六〇年代の最後の二、三年日本人が有史以来はじめて、多少の〝こづかい銭〟を持った時代といえよう。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
	6	経済大国を自称する前にやらねばならぬことがヤマほどある。外見だけではなく、国民生活の実質的な充実だ。
	1	数年前まで日本人のあいだになにかにつけて日本をけなし自嘲する傾向があった。このごろ、その風があまり感じられなくなった。

20 二十数年前の敗戦後の苦しい生活がウソのように思えたりする。
21 経済大国と胸を張る前にその胸の中で考えたいことがある。われわれの生活環境は大国といえるほどのものかどうか。
22 日本人の利発と勤勉は定評がある。
23 豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
24 経済大国を自称する前にやらねばならぬことがヤマとある。外見だけでなく国民生活の実質的な充実だ。
このごろ自嘲があまり感じられなくなったのは、〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんで、かつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
このごろは〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがっている。
たしかに日本は経済先進国に追いついた。しかしわれわれの生活環境は大国といえるほどのものか。先進国にくらべて、そう見劣りしないものになっているか。
日本人の利発と勤勉は定評がある。
豊かな社会に数歩接近したが、さてまわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
経済大国を自称する前にやらねばならぬことがヤマとある。
〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがった。
国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。
われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
日本人の利発と勤勉は定評がある。
豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境はひどく悪化している。
経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけでなく国民生活の実質的な充実だ。
数年前まで日本人のあいだに日本をけなし自嘲する傾向があった。
国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。
われわれの生活環境は大国といえるほどのものか。
日本人の利発と勤勉は定評がある。
豊かな社会に数歩接近したが、生活環境は悪化している。
人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがった。
国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。
経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。

生徒番号	節	中心文
25	4	日本人の利発と勤勉は定評がある。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
	6	人間尊重のない〃経済大国〃のカケ声だけでは息切れも早くはないか。
	1	このごろ、その風はあまり感じられなくなったのは、〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
	3	その誇りを持つことは結構だし、つまらぬ自嘲をおたがいしなくなったのはうれしいことだが、経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
26	6	高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんで、国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
	1	〃経済大国〃日本の誇り。
	2	国民総生産はソ連を除けば世界第二位だ。
	4	日本人の利発と勤勉には定評がある。
	5	経済大国を自称する前にやらねばならぬことがヤマとある。
27	2	国民総生産は、ソ連を除けば世界第二位だ。
	3	われわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。
28	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境はひどく悪化している。
	1	このごろ、その風があまり感じられなくなったのは〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
	3	経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
29	6	高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんで、かつぐ国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
30	1	〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
	6	たしかに日本は経済先進国に追いついた。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。
	3	外見だけでなく、国民生活の実質的な充実だ。
	1	その風があまり感じられなくなったのは〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。
	3	経済大国と胸を張る前に、その胸の中で考えたいことがある。
	5	豊かな社会に数歩接近したが、さて、まわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
	6	経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけではなく、国民生活の実質的な充実だ。

生徒番号	要旨
1	わが国の経済成長はめざましく、〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがった。しかし、生活環境はずいぶん悪化しているため、まず国民の生活環境を大きく改善すべきである。
2	経済大国にふさわしいような生活環境をもっともっとつくるべきである。
3	高度成長、〃経済大国〃日本、これらの誇りからおたがい自嘲することが少なくなったのはよいことであるが、まわりを見渡せば生活環境はひどく悪化している。このへんで国民生活の実質的な充実、生活環境の改善をはかるべきだ。
4	このごろ日本人に自嘲が感じられなくなったのは〃経済大国〃のためであろう。だが、高度成長により生活環境がひどく悪化した。このへんで、国民生活環境を大きく改善すべきだ。
5	このごろの日本の邁進はすごい。国民総生産はソ連を除くと第二位だし、高度成長は続いている。しかしわれわれ市民の生活環境はひどく悪化している。これは外見だけにとらわれているためで、もっと人間尊重を考えねばならない。
6	数年前までは、日本人は祖国をけなし自嘲する傾向があったが最近はみられない。国民総生産は世界第二位だが、国民の生活環境ははたして大国だろうか。人間尊重のない〃経済大国〃のかけ声だけでは息切れも早いだろう。
7	経済大国日本の誇りが国民の間にひろがった。しかし経済大国と胸を張る前にわれわれの生活環境は、大国といえるほどのものかどうか。豊かな社会に数歩接近しただけで生活環境はひどく悪化している。外見だけでなく中味も充実してほしい。
8	現在の日本は経済大国として高度成長を続けている。その中で日本人も自信をとりもどしたようだ。だがわれわれの生活環境はひどく悪化している。このへんで国民の生活環境を大きく改善すべきだ。
9	今、日本の国民総生産はソを除き世界第二位、二十数年前とはまるでちがう。たしかに日本は、経済先進国に追いついた。しかしまわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。経済大国を自称する前に、やらねばならぬことがヤマとある。外見だけでなく、国民生活の実質的な充実だ。
10	近年、日本は高度の経済成長をとげた。しかし実際の生活環境はひどく悪化している。このへんで国民の生活環境を改善すべきだ。
11	経済大国と胸を張る前にその胸で考えねばならぬことは、豊かな社会に接近したが、生活環境がひどく悪化していることである。生活環境を改善しなければならない。
12	日本は経済が高度に成長し、豊かな社会に接近したが、生活環境はひどく悪化している。高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりも、このへんでかつぐ国民の生活環境を改善すべきだ。
13	経済が発達するにつれて、日本人は今までのように日本を自嘲しなくなった。産業の規模が大きくなるだけ公害が大きくなり、交通事故も多くなる。経済大国と胸を張る前に生活環境を改善すべきだ。
14	たしかに日本は経済先進国に追いついた。が、われわれの生活環境は大国といえるほどのものかどうか。豊かな社会

生徒番号	要旨
15	に数歩接近したが、さてまわりを見渡せば、生活環境がひどく悪化している。
	日本は二十数年前の敗戦後の苦しい生活がウソのような経済大国となった。軍国主義でドロ沼に落ちこむと一転して
	経済立国に邁進したが、今では生活環境がひどく悪化している。経済大国の前に国民生活の実質的な充実を考えたい
	ものだ。
16	わが国の経済成長はめざましいものがある。しかしわれわれの生活環境は大国といえる程のものかどうか。社会は豊
	かになったが、生活環境が悪化している。外見だけではなく国民生活の実質的な充実が望まれる。
17	国民総生産はソ連を除き世界第二位となった。だが、国民生活は、実質的に充実しているか、生活環境を大きく改善
	する必要がある。
18	このごろ自嘲する風があまり感じられなくなったのは〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがったからであろう。国
	民総生産はソ連を除けば世界第二位である。しかし生活環境は逆に悪化している。外見だけでなく国民生活の実質的
	な充実がひつようだ。
19	高度成長のはなやかな御興を猛スピードで走らせるよりもこのへんで、かつぐ国民の生活環境を大きく改善すべき
	だ。
20	日本人がこのごろ経済大国の誇りを持つようになって豊かな社会に接近したがまわりを見ると生活環境がひどく悪化
	している。公害が広がり、交通事故がふえ住宅難に苦しんでいる人が多い。このへんで生活環境を改善すべきだ。
21	日本は経済では世界でもトップレベルを行っている。しかし、声だけではどうにもならない。だからもっと実質的に
	経済成長問題を考えなければならない。
22	日本は国民総生産世界第二位になったが、生活環境ははたして大国といえるほどのものだろうか、外見だけではなく
	国民生活の実質的な充実も考えねばならぬ。
23	今の日本は経済大国の名に恥じない。国民総生産ではソ連を除き世界第二位である。しかしそれではその名に値する
	生活環境であろうか。公害交通事故その他いろいろのことが増加している。これからは、外見だけではなく国民生活
	の実質的な充実に力を入れたいものだ。
24	〃経済大国〃日本の誇りが国民にひろがった。国民総生産はソ連を除けば世界第二位だ。しかし経済大国と胸を張る
	前にその胸の中で考えたいことがある。まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。国民生活の実質的な充実
	が先決だ。
25	数年前まで日本人が日本をけなす傾向があったが、このごろはなくなった。日本の経済発展のせいだろう。しかしそ
	の割には生活環境がひどく悪化している。外見だけではなく国民生活の実質的な充実をはかるべきだ。
26	日本はドロ沼の敗戦からたちなおり、今では〃経済大国〃と自称するまでになった。が、これは外見だけである。だ
	から真の経済大国になるために国民生活の実質的な充実をすべきだ。

27 このごろ日本人は自嘲する傾向が少なくなった。それは〝経済大国〟という誇りがひろまったからだろうが、それに比べて生活環境の悪化が目につく。このへんで国民の生活環境を大きく改善すべきだ。

28 このごろ日本は経済大国とよばれるまでになったが、逆に生活環境がひどく悪化している。経済大国と自称する前に国民生活を充実すべきだ。

29 〝経済大国〟となった日本であるが、われわれの生活環境は大国といえるものかどうか。経済大国を自称する前にやらねばならぬことがやまとある。外見だけでなく、国民生活の実質的な充実をやって欲しいものである。

30 このごろ〝経済大国〟日本の誇りが国民に広がった。国民総生産はソ連を除いて世界第二位だ。豊かな社会に数歩接近したが、まわりを見渡せば生活環境がひどく悪化している。外見だけではなく国民生活の実質的な充実が大切だ。

資料E

生徒番号

感想

1 たしかに最近の日本の経済成長はめざましい。それと並行してわれわれの生活環境はたしかに悪化している。経済大国としての日本人の誇りが、住みよい国としての誇りに変わるとき、幸せがくるのではないだろうか。

2 筆者のいうとおりだと思う。経済大国といっても収入がアンバランスだ。国民の生活が充実しているとも思えない。

3 利益追求もいいかげんにしてほしい。

関連記事を合わせて読んで見るとその問題のむづかしさに「ウーン」と頭をかかえてしまった。日本は私が思いもよらない程高度成長をとげ円切上げの問題までおこっている。そして手ばなしで高度成長を喜んでいる時代はすぎ、真の経済大国への脱皮の重大な時期である。今まで経済問題などほとんど無関心であった私に大きなショックを与えた。高度成長は果たして私たちが行きつこうとしている未来に真の幸福をもたらしてくれるだろうか。今の世の中が不安にさえなってくる。その不安が「国民の生活環境の改善」「人間尊重」ということばになるのであろう。日本が〃経済大国〃〃先進国〃と呼ばれている世界の国々のようになるのならあまり高度成長を喜ぶ気がしない。人間性の重視された幸福のある世界へ進みたいと思う。

4 筆者の言いたいことはよく分かる。しかしこのような意見は今までに何度もお目にかかっている。要は、どうしてそうするかが問題だ。主観だが、筆者のことばの裏には資本主義では解決できないから社会主義になるより仕方がないといっているようである。しかし社会主義の国では国民の消費生活は向上しない。そうなるとまた問題だ。ぼくは、この問題は人間が人間である以上解決しない。

5 日本の遇進には目をみはるものがある。私のように社会や経済問題に無知な者にでもその目まぐるしさはわかる。二十数年の間に経済大国になった人々に感謝したい。今の私はこんなに幸せだから……。でもほんとうによく考えてみると私もこのノートに交通事故や公害問題、沖縄問題、人口の都市集中化などさまざまな記事を読んで来た。だが、どうしようもない場合もある。それは私の生活に直接関係のないことだから甘いのだろうか。ともかくひとりひとり気をつけるより方法がない。

6 日本人が日本をけなし自嘲しなくなった理由は〃経済大国〃になったためであろうか。私はもっと他の理由を考えている。近年日本人と外国人との接触が緊密になり、マスコミの力もかりて外国と外国人を見る目がちがって来た。それが日本人に民族の誇りを持たせたのだと思う。しかしわが国民の生活環境は先進諸国にくらべてなんと劣っていることだろう。政府が宣伝する〃経済大国〃の裏にこういう事実があることを見抜いて真の大国たるよう働きかけねばならない。

7 今では、高度成長のかけ声のもとに自然を破壊しつつある。未来社会では人間は働かなくても暮せるようになるかも知れない。便利になるのはよい。だが何か大事なものが失なわれるのではないか。

8 高度成長といい、経済大国というけれど外見上のこととしか思えない。生活に余裕が出て来ないのである。むしろ国

民生活が犠牲にされて来たようだ。自然破壊につながる生活環境の悪化は国をあげて反省し対策を講じなければならない。

最近、日本は世界の注目を集めるようになった。エコノミックアニマルという汚名もあるが、だが、それが外見だけのものであり、国民に生活の充実感がないとしたら問題だ。新聞に報道されるさまざまな悪が日本の国の底流になっている。筆者のいうように確かにこれは改善されなければならない問題である。

ここで言っている生活環境とはやはり外見にはいるのではなかろうか。そりゃ国民の生活環境の改善も必要なことだ。しかしそれよりももっと大切なことは、人間教育だと思う。情のある暖かい人間をつくるということが先決だと思う。今の日本の矛盾の多くは矛盾した人間にある。生活環境がよくてもそこに生活する人間が美しくなければ真の幸福はない。

日本は文明国だやれ工業国だとさわぐわりにその中味はからっぽなように思う。そんな言葉をどうにも信じることができない。貿易の自由化で困る国がどうして有数の工業国であろう。住む家もなくひしめき合っている国がなんで文明国なものか。日本は有能な労働力によって成立している小国だと思う。

問題が大きすぎて分りにくいが、ここに書いているように経済が成長するにつれて国民の生活環境が悪化しているように思う。経済も成長させ、環境も改善するということが両立できないのであろうか。これは経済成長のためかどうかは知らないが、最近社会風潮が派手になり、享楽的な生活態度が見られる。こういうことも考えてみる必要がある。異常に発達した経済は社会のあらゆる部門を変えてゆく。交通事故、公害、住宅難、などの国民の生活環境の問題が大きく表面化して来た。国も黙って見ている訳にはいかなくなったようだ。この問題には真剣にとりくんでほしい。

今日の日本はなるほど豊かになった。しかし、国民の生活環境が悪化してはなんにもならない。空気汚染だけでも田舎のわれわれの生活までも暗くしている。

ぼくには日本が経済大国であるとは思えない。資源のないわが国は原料の大部分を輸入にたよっているからだ。日本人の勤勉さが、今日の繁栄をもたらしたのであろう。

日本の高度成長には目を見張るものがある。円の切上げもちらほらとか。しかしその足もとはどうかというと住宅、公害、交通問題が山積みし、国民総生産は世界第二位であるが、個人所得は、ぐんと落ちる。国民の生活向上を最優先すべきではないか。

戦後の躍進はすばらしい。国民総生産は、自由主義国の中で第二位であるが、一人あたりの国民所得は十八番目である。日本には矛盾したことが多い。われわれ日本人は、見せかけだけの繁栄に浮かれすぎてはいないだろうか。

たしかに日本人の生活はよくなった。二十数年でこれだけのことをできるとは日本人はすばらしい。経済大国ということばも国民の中で自然に受け入れられるようになればと思う。生活あっての経済だということを忘れてはならない。

経済成長は大切だと思うが、成長しすぎてもと考える。成長しすぎるとあらゆる害毒が出て来て、自然が破壊される。今このことをよく考えて未来に備えるべきである。人間にとって自然がたいせつだ。自然の花と造花を比べてみてもわかる。

生徒番号

感想

20 高度成長を続けて来た日本も国民総生産では世界第二位となった。だが、その背後で置き去りにされた人々も多い。社会福祉の低さがこのことを物語っている。首相の内政の年ということばを信じて生活環境の改善にとりくまなければならない。

21 日本も経済大国と呼ばれるまでになり、わたしたちの生活も段々よくなって来たように思うが、まだ解決されねばならない問題も多い。生活環境の改善を一日も早くやって本当に経済大国と呼べるようにしたいものだ。

22 私は、果たして日本がこれから先も大国となっていられるかどうか。原料の少ない日本では低開発国が工業化されると苦しい立場になることは確かだ。経済大国とばかり喜んではいられない。

23 世界的に見れば経済大国かも知れないが、国民一人の所得は低いそうだ。というのは大企業がその利益を独占しているといっても過言ではない。この調子だと死の世界へ足をふみ入れるのではなかろうか。国民一人一人の幸福を願いたい。

24 日本は経済大国だといわれるが、表面ばかりではないだろうか。国民所得はまだまだ低い。調和のある発展が国力をつけるのではないか。

25 経済大国日本といっても日本にいてはピンとこない。個人の所得ではイタリアと同じ位というのだから面白い。生活環境もほんとにひどいものだ。高速道路も結構だが、もっと国民所得を平均化しなければならない。

26 〃経済大国〃小さな国が大国と呼ばれるようになったのだからたいしたものだ。しかし国民ひとりひとりの生活を考えると喜んでばかりいられない。〃中味のよい国〃といったら少しおかしいが、国民生活の充実した国にするために政治家も人間尊重の精神で考えてほしい。

27 日本全体の所得は大きいが、一人当りの所得が低いのではなんにもならない。筆者の意見に全面的に賛成する。

28 近頃日本人はエコノミックアニマルと呼ばれるほど、金もうけのために働いている。しかし高度成長とはうらはらに、生活環境は悪くなっている。あまりに急速に発展しすぎたみたいだ。もっと国民ひとりひとりが満足できるように地盤を固めていった方がよいように思う。社会福祉の強化が要望される。

29 麦飯から米飯へ、経済発展はすばらしいものだ。だが、まだまだ経済大国と自称するには早すぎる。個人所得からすると顔を赤くする低さだ。経済大国が国民の生活に犠牲を強いるものなら経済大国にならなくてもよい。経済の発展と国民生活の向上が共に行なわれるよう努力しなければならない。

30 交通事故や公害の問題はわれわれの生活をおびやかしている。これらが経済発展の名のもとに生れて来たものなら問題だ。たしかにわれわれの生活はよくなったと思うがそれが生活の充実感とならないところに日本経済の欠点がある。国民生活を犠牲にしてまでお金は欲しくない。

関連記事	生徒番号
「経済大国の素顔」(1) 70年代を展望する	1 1
〃 (2)	1 8
〃 (3)	1 10
〃 (4)	2 4
〃 (5)	5 10
「内政の年とは何か」	8 22
「反省したい経済優先」(声)	12 29
「精神と物質の調和ある日本に」(声)	3 29
「70年代前半の国民生活」経済審の発展計画	29
「70年代への進軍ラッパ」激動への挑戦と覚悟	3 19
「サザエサン」やくしん日本	26 29
「43年度の国民総生産」五二兆七八〇三億円 共産圏除き二位確定	17 20 29
「はんらんする日本商品」	20
「先月も大幅な黒字」国際収支二億五四〇〇万ドル	20
「輸出二百億ドルに迫る」通産省見通し	20
「消費者物価指数(1963=100)日本米国西独フランス	20
「予算編成大蔵案27日ごろメド」	18
「中小企業今年の課題」	13
「生活環境」公害の空なお続く	10
「60年代をどう見る、70年代の見通しは」町に村にひずみ激化	6 11
「地方の公害対策促進」	5
「激動この10年」記者座談会	3
「生産新記録が続々」45年の産業展望 通産省	3
「円切上げ政府内々に検討」	3
「史上最高の五兆四三九五億円」30日の日銀券の発行高	3

反省項目	生徒番号
語句の意味を辞書で確認することは役に立った。	1 13
前よりも新聞を親しみをもって読むようになった。	1 14
コラム欄を通して社会政治経済に親しむようになった。	1 15 20 25 28
この仕事をして勉強不足を痛感した。	1 29
毎日することは二度目のせいかあまり苦痛にはならなかった。	1 7 9 22 23 28
コラム欄を楽しく読めるようになった。	1 15
夏期コラムノートの反省の上に立ってノート作成に当った。	1 2 3 5 7 20 23 30
感想は知識や興味のないものについては表面的になった。	2 15 18 27
要旨をまとめるのに苦労した。	2 12 22 28
その日のうちに一日分を仕上げるようにしたのであまり苦にならなかった。	3 27
関連記事を集めるのに骨が折れた。	3 7 11 13 16 21 23 27 28
関連記事の少ない日は感想を書くのが難しかった。	3
政治や経済の問題ではわからないことが多く勉強せねばと思った。	3 12
要旨は中心文をもとにまとめたので楽だったが字数オーバーが多かった。	3 13
感想では主体性のある意見を書きたかった。	3 27
このノートの方が授業より力がつくように思えた。	4
関心の薄いものは書きにくかった。	4 13
毎日やらせる必要はない。	4 25 28
今度もためてしまって提出日前になってあわてた。	4 14 19 26
政治問題については主観がはいりすぎてどの程度書いたらよいか迷った。	4
毎日苦しみながらもノートを完成したことはうれしい。	5 13 19
どうもまだ新聞に興味がもてない。	5
自分の好きな記事だけについてやればよい。	5 11
コラムノートはやはりプラスになったと思う。	5 14 20 23

簡潔な文章の書き方を学ぶことができた。　6/30
物事を深く見つめることを教えられた。　6
根性を養うことができた。　6/20/30
これによって新聞を深く読む習慣を身につけたい。　6/22
できればこれからもこのノートを書き続けたい。　6/9
世の中の出来事がよくわかった。　7
毎日続けることの難しさを痛感した。　8/12/24
感想を書いているうちに文章としてのまとまりがでてきた。　8/20
筆者の立場があまりにも批判的であるので納得できない。　9
これを読んで人間の美しさということを考えさせられた。　10
こういうやり方で読むのは気が重い。　11
標題をつけるのが難しかった。　12
作業能率というようなことを考えさせられた。　12
夏休みに比べて期間が短かったのであまり苦にならなかった。　15/21
自分の意見がもてるようになった。　15
中心文がわからずに苦労した。　16/19/21
自分ではこのノートに満足している。　16
毎日やらなかったので前の新聞を捜すのに一苦労であった。　17/20
このノートにより国語の力が多少ついたように思う。　17/18
苦しみのあとに楽びがあるということがわかった。　17/19/24/30
このノートは是非来年も続けてほしい。　17
時間がかかりすぎて他のものがやれない。　18/22/29
立派な社会人となるためにもこうした勉強が必要だ。　29

（和歌山県　耐久高校教諭）